

春祭りとなれば

一気に華やぐ町

大野祭り

OHNO MATSURI



毎年5月3日・4日の大野祭りは、江戸時代から続く情緒あふれる祭りである。3日の宵祭りに大野橋上で山車3台、船1艘が出会う姿は幻想的で印象深く、夜には提灯に火が灯り、水面に映る山車も美しい。4日の本祭りで、披露されるからくり人形協演は当時の技術や文化水準の高さを知らせてくれる。

信仰と伝統と

歴史の息づく町

風物詩

FUJIBUTSUSHI



風宮神社の境内に竹を立てた仮社殿を作り、津島神社に前もって代参で受けたお札を飾り、家内安全や夏の流行病(はやりやまい)にならないよう、夕方提灯を持ち一週間お参りする行事。またお雛子を伴い町内にお礼に回る風情・情緒ある夏の風物詩となっている。各町内ごとに仮社殿を作るが、祭りは順番に旧暦で決められ、この竹で作る仮社殿の様子からをオタククサンと呼ばれるようになった。6月半ば〜7月25日頃まで



紅葉車

地図 C-3

橋詰町の山車で、彫刻に紅葉を施し高覧には源氏香をちりばめ唐子人形4体を乗せた名古屋形で文久3年に創建された。



梅栄車

地図 C-2

十王町の氏神天満社の紋梅鉢を戴く山車で、唐子人形4体を乗せる名古屋形で嘉永元年の創建。



唐子車

地図 A-3

高須賀町が保有するが、寛保元年創建で知多半島に曳き廻されている山車の中で一番古いといわれている。最近雨覆いも発見され修復し、昔の姿がよみがえった。からくり人形を4体乗せる名古屋形です。



権丸

地図 B-2

権現町の山車船で矢田川を遡上し、365個の提灯を点灯し、雛子に合わせ左右に回る姿は、幻想的で祭りのハイライトとなる。提灯が回るまきわら船は大変珍しく、町民の誇りとなっている。



海音寺境内にある浜薬師如来は「海中から石に乗って現れた」と言い伝えられ、境内に「来迎石」として置かれている。人々の健康を祈る大祭。11月8日開催。



歴史ある古民家などを使い、ギャラリーやステージ、大野町や小倉町一帯の名所旧跡を回るスタンプラリーなど多彩なイベントが催される秋の一大イベントがある。10月第3金土日の、3日間開催。

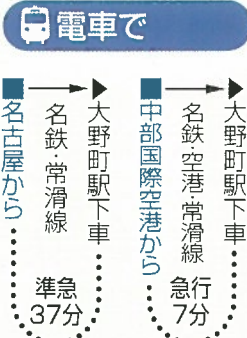
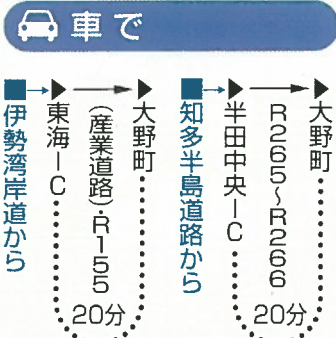


大野橋で火をともし奉納し、先祖にお盆最後のお見送りをする情緒あふれる行事。8月15日開催



古くから行われており、虫供養道場・阿弥陀講・彼岸大法要の三大行事からなる。地区当番となる年を十二支の年に割り当て、12年で一巡するようになっている。佐治家の守り本尊であった薬師如来の掛け軸を祀ったことが始まりという説がある。(県指定無形民俗文化財)

交通のご案内



お江や尾張大野の歴史 珍しい資料があるよ!! お江さんや、大野町周辺の歴史や風物詩を主に、展示も内容も変えつつ紹介します。

- 開館=H23年1月15日~12月4日 原則週末(土・日)・(祝)開館
- 時間=午前10時~午後4時
- お問合せ=常滑市観光案内所 Tel.0569-34-8888
- 常滑市大野町6-87

お問合せ 常滑市観光案内所

TEL.0569-34-8888 時間 9:00~17:30(年末年始休み) 企画・編集=「江」ゆかりの地を訪ねる会 事務局 発行=常滑市役所 商工観光課